

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ(案)に関する意見

| | | | | | |
|----------|-------------------------|--|--|----|--|
| 氏名(フリガナ) | 古久保成三郎(フルキホ セイザブ ち) | | | | |
| 住所 | (都道府県名) | (市区町村以下) | | | |
| | 愛媛県 | | | | |
| 電話番号 | 0 8 9 3 - 2 3 - 3 0 2 1 | メールアドレス | | | |
| 職業 | | 年齢 | | 性別 | |
| 意見該当箇所 | 御意見 | | | | |
| 頁 | 行 | (200字を超える場合は200字以内の要旨も記載) | | | |
| 13 | 15 | <p>【要旨】</p> <p>「河川整備計画の目標と同程度の安全度を確保」について、「近代記録の最大洪水を防ぐ程度の安全度を確保」とすべきである。</p> <p>【意見】</p> <p>16ページ8~9行、20ページ8行にも同様の言葉があるが、いわゆる河川整備計画の基本方針は高く設定、河川整備計画の目標流量は現実的な目標が設定されている。ダブルスタンダードとなっており、まず、ダブルスタンダードを解消すべきである。</p> <p>愛媛県肱川水系の例では、6300 m³/s と5000 m³/s と二つの計画流量があり、6300 m³/s は、歴史上6300 m³/s と推定されるような洪水はなく、机上の計算にすぎない。5000 m³/s については、昭和18年と20年の洪水は、5000 m³/s とされている。「河川整備計画の目標と同程度」は再検討すべきである。</p> <p>したがって、「近代記録の最大洪水を防ぐ程度の安全度を確保」とすべきである。</p> | | | |

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ(案)に関する意見

| | | | | | |
|----------|---------------------|---|--|----|--|
| 氏名(フリガナ) | 古久保成三郎(フルカホ セイザブ ち) | | | | |
| 住所 | (都道府県名) | (市区町村以下) | | | |
| | 愛媛県 | | | | |
| 電話番号 | 0893 - 23 - 3021 | メールアドレス | | | |
| 職業 | | 年齢 | | 性別 | |
| 意見該当箇所 | 御意見 | | | | |
| 頁 | 行 | (200字を超える場合は200字以内の要旨も記載) | | | |
| 15 | 9 | <p>【要旨】</p> <p>「既存施設の機能増強を目的としたもの」については、検証の対象とすべきである。次の行の「ダム本体工事の契約を行っているもの」についても同様である。</p> <p>【意見】</p> <p>今日、新規ダムの建設ができなくなり、既存ダムの再開発事業が考えられている。しかし、愛媛県肱川水系の鹿野川ダム改造事業の世界最大級の直径11.5mのトンネル洪水吐のように、流域委員会の途中で挿入され、委員の議論もなく、事務局説明のまま何となく通り抜けてしまったようなずさんな計画、肱川支流に計画されている山鳥坂(やまとさか)ダム以上に、下流に河川環境悪化をもたらすと考えられるにもかかわらず環境影響評価の調査範囲は、ダム下流わずか5kmの支流との合流点までしか調査対象範囲とされておらず、トンネル洪水吐については流域委員会でもそれに続く環境検討委員会でも議題にされていない。市民に対する説明会も予定はなく、市議会で「市民に説明しないのか」と追及され、仕方なく説明会を行ったが、翌週に関連工事に同時着工した。6月17日、肱川漁協総代会は、全員一致で山鳥坂ダム反対決議とともに鹿野川ダムトンネル洪水吐反対を決議した。漁協のこのような状況で、トンネル洪水吐を来年にも強行着工しようとしているのである。</p> <p>既存施設の機能増強といいながら、新規ダム建設以上のこのような実態について、検証の対象から除くべきでないことは明らかであり、「既存施設の機能増強を目的としたもの」についても検証の対象とすべきである。</p> | | | |

今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ(案)に関する意見

| | | | | | |
|----------|---------------------|---|--|----|--|
| 氏名(フリガナ) | 古久保成三郎(フルカヒ セイザブ 朗) | | | | |
| 住所 | (都道府県名) | (市区町村以下) | | | |
| | 愛媛県 | | | | |
| 電話番号 | 0893-23-3021 | メールアドレス | | | |
| 職業 | | 年齢 | | 性別 | |
| 意見該当箇所 | 御意見 | | | | |
| 頁 | 行 | (200字を超える場合は200字以内の要旨も記載) | | | |
| 40 | 3 | <p>【要旨】</p> <p>地域振興に対する効果について、「どのような効果があるか」だけでなく、「どのような地域の可能性を潰してしまうか」についてもっと注意が払われるべきである。</p> <p>【意見】</p> <p>多くの新規ダムの治水効果が疑われながら、環境悪化が懸念されるにもかかわらず建設されるばかりでなく、地域の多くの可能性を潰すことになっていることである。山鳥坂ダム建設も既設鹿野川ダムのトンネル洪水吐新設も、この周辺地域の可能性を潰すものであることである。鹿野川湖をふくむ山鳥坂地域は、ヤイロチョウが生息している地域であり、確認数は高知県の県鳥として保護地の「四万十ヤイロチョウの森」よりも多い。また、クマタカは、山鳥坂のような低空で確認できるのは珍しいといわれる。「山鳥坂ヤイロチョウとクマタカの森」として定住地構想を提案したこともある。その中に鹿野川ダム湖はある。鹿野川湖は、かつてヘラブナ釣りで全国的に知られ、著名な芸能人も来ていた。また、鹿野川湖漕艇場として全国から漕艇合宿に来ていた。しかし、外来魚ブラックバスとモーターボートの疾走のために全国からの宿泊客は激減。鹿野川湖漕艇場は、山鳥坂ダム建設の地域振興としても、旧建設省が2000m×8レーンコース整備を計画したが、町長と地元代議士が拒否、潰れた。ダム建設や今日のトンネル洪水吐建設のためである。行政は、全国的にとられている安全対策についても愛媛県ボート協会の要望書にもかかわらず公然と放置してきた。世界最大トンネル洪水吐は、漕艇場艇庫から栈橋の道のど真ん中に設計されている。FISA(国際ボート協会)が期待していたアジア初の国際漕艇場が潰れた。</p> | | | |